

まきどき・植えどき・収穫どき

どきどき情報 1月



新年明けまして
おめでとうございます。



新年明けましておめでとうございます。昨年も皆様と力を合わせて、いくつかの成果を挙げ終了することが出来ました。改めて感謝申し上げます。

昨年は、年も押し迫った12月26日に目標の1億9千万円を達成できました。売上2億円の壁は、やはり厚いと実感できました。同時に、この壁はやり方次第では十分突破できる、という可能性も実感できました。全国的に見ても年間売上2億円台の直売所は、数が極端に少なくなってきました。2億円台に乗せるということは、全国有数の直売所の仲間入りをするという意味を意味します。今年是非とも「あさつゆ」をそのレベルまで引き上げたいと思います。

直売所の成功に、特別の秘策はありません。日々、基本に忠実に、やるべきことを丁寧にきちんとやる、このことが一番大事なことを考えています。今年、生産の現場と販売の現場、この二つの現場を他には負けない最強の現場にすることを目指し、皆さんと力を合わせ進んで行きたいと思ひます。

本年が皆様にとって御多幸であることをご祈念いたします。

あさつゆ運営組合長 伊藤良夫

●野菜の作業

種まき	栽培管理のポイント																		
ハウス育苗型春レタス ・標高500mで4月下旬～5月上旬頃に収穫する作型では今月が播種期です。 冬まきパセリー 播種後十分に灌水をし、温度を20℃前後で管理する。(25℃以上にしない) 発芽後は日中20℃夜間10℃を目安に管理。本葉3～4枚で間引きをします。	<p>・果菜類の温度管理 発芽までは、28℃～30℃を確保し、発芽後(芽が土を盛り上げてきたら)は徒長防止のため被覆物を取り温度を低めに管理する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品目</th> <th colspan="2">発芽後～育苗中期</th> </tr> <tr> <th>昼温</th> <th>夜温</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トマト</td> <td>25℃</td> <td>18℃～15℃</td> </tr> <tr> <td>ピーマン</td> <td>25℃～28℃</td> <td>22℃～24℃</td> </tr> <tr> <td>ナス</td> <td>25℃～30℃</td> <td>18℃～20℃</td> </tr> <tr> <td>キュウリ</td> <td>23℃～25℃</td> <td>16℃</td> </tr> </tbody> </table>	品目	発芽後～育苗中期		昼温	夜温	トマト	25℃	18℃～15℃	ピーマン	25℃～28℃	22℃～24℃	ナス	25℃～30℃	18℃～20℃	キュウリ	23℃～25℃	16℃	<p>今年の作付け計画にあたって ・定番の品目だけでなく、ちょっと珍しい野菜があったりすると直売所の魅力がアップします。種苗カタログなどに目を通し、1～2品目新たな品目や作型の試験的栽培にもチャレンジしてみましよう！！ ・長野県では、果樹のオリジナル品種、アスパラガスなど栽培拡大を進めています。部会で取り組むことによって補助事業の導入も出来ます。</p>
品目	発芽後～育苗中期																		
	昼温	夜温																	
トマト	25℃	18℃～15℃																	
ピーマン	25℃～28℃	22℃～24℃																	
ナス	25℃～30℃	18℃～20℃																	
キュウリ	23℃～25℃	16℃																	

●便利な農業機械の紹介 (AMX-7)

クボタが国土交通省北陸建設局と共同開発したラジコン操作による大型除草機は、県下の遊休荒廃地解消に利用されています。7円/1㎡(7,000円/10a)で作業を請け負っています。荒廃してしまった農地の再利用、野生獣回避のための緩衝帯設置などで利用されたい方は長野クボタソリューション事業部へお問い合わせください。 TEL 0268-42-5980 FAX 0268-41-1035



最大法面斜度 40度



刈幅 1850mm



殺虫剤は、昆虫の生理的生存機能を阻害し死滅させることを目的とし、昆虫の性質(1)神経がある(2)呼吸をする(3)幼虫から成虫に変わる(4)食事をする などのどの部分に作用するかによって以下の4つに分類されます。

1. 神経系阻害剤

神経伝達を阻害すると「物を見る」「物を食べる」「動く」などの行動が出来なくなります。この神経系阻害剤には(1)有機リン系殺虫剤 農薬のうち最も種類が多くあり、即効性はあるものの残効が短い、アルカリ性の農薬との混用はできないなどの特徴がある。(2)カーバメート系殺虫剤 有機リン系と似た性質があるが効果のある昆虫の幅がやや狭い。(3)ピレスロイド系殺虫剤 除虫菊の殺虫成分に似た化学合成物で速効性と残効性があるが、浸透移行性がないので昆虫に直接かかる必要がある。(4)ネオニコチノイド系殺虫剤 たばこのニコチンと同じ性質があり、残効性が長く、浸透移行すること、吸汁性の害虫に対して特に効果が高い。(5)ネライストキシン系殺虫剤 鱗翅目害虫に効果があり浸透移行性がある。 などの農薬があります。

2. 呼吸阻害剤

呼吸作用に関わるミトコンドリアの電子伝達系阻害剤で、鱗翅目(ヨトウなど)、半翅目(アブラムシ、コナジラミ)、アザミウマ類、ダニなど多くの害虫に殺虫作用を持つ比較的新しい剤で、(1)トルフェンピラド(2)ピロール系(3)マクロライド系があります。

3. 昆虫生長制御剤(IGR剤)

昆虫は、卵から幼虫になり、幼虫は脱皮を繰り返して蛹となり羽化しますが、この生長過程を何らかの形で阻害する殺虫剤で、主なものは脱皮阻害剤、変態阻害剤です。ふ化直後の幼虫は、脱皮を盛んに繰り返すため若齢幼虫ほど効果が高くなります。(1)ベンゾイルウレア系殺虫剤 この殺虫剤は、昆虫のキチン質(皮)の生成阻害剤で新しい皮が出来なくなり死に至る。ミツバチや天敵(ハチ類)などに影響が少なく、人畜に毒性が低い反面、アブラムシなどには効果が低い特徴がある。(2)プロフェジン剤 これもキチン質の生成阻害剤で、コナジラミ類、カイガラムシ類の若齢幼虫に選択的に効果が高く、成虫には効果はないが、これを処理した成虫が生んだ卵はふ化できなくなる。遅効性であるが、残効性が長く、コナジラミやカイガラムシ以外の昆虫には効果が低いが、天敵類に影響がない利点を持つ。(3)テブフェノジド剤 脱皮を異常に促進する薬剤で、散布した昆虫は異常脱皮を繰り返し、脱皮不全のまま死に至る。キチン生成阻害剤より速効性で、残効性が極めて長く、蝶や蛾の幼虫に特異的に効果がある。などの農薬があります。

4. 微生物殺虫剤(BT剤)

害虫に対して選択的に殺虫効果のある毒素を作る微生物を培養して農薬としたもので、これを散布した葉を蝶や蛾の幼虫が食べると体内の消化管内の消化液で成分が変化し下痢をおこして死ぬというものです。B. Thuringensisという微生物が作る毒素を農薬としたもので、蝶や蛾の幼虫に選択的に作用し(蝶や蛾の幼虫以外には効かない)死ぬまでの時間はかかるが、食害を止める効果は早い、若齢幼虫ほど効果が高いなどの特徴があります。

※分類上同じ仲間の殺虫剤を連続散布すると拮抗性が現れますので、害虫に合わせて上記の農薬を入れ換えながら散布し、薬剤拮抗性を持たせないようにします。次号では、分類ごとの主な農薬名をお知らせします。

お知らせ1

エコファーマー認定申請の対象作物が増えました。※新たに追加された品目は

あずき、あんず、すもも、ネクタリン、ベリー類、ブルーベリー、くり、キウイフルーツ、うど、エンダイブ、えんどうまめ、かぶ、カリフラワー、ごぼう、やまごぼう、こまつな、サツマイモ、シュンギク、ズッキーニ、チコリー、チンゲンサイ、タアサイ、とうがらし、にんじん、べにばないんげん、ミズナ、ミブナ、みょうが、ルッコラ、ベリーリーフ、アネモネ、スターチス、ばら、しゃくやく **です。**

※1月24日 午前9時から 丸子文化会館 和室で申請書作成を行います。新たに申請したい、品目を増やしたいという方は、**1月10日まで**にご連絡ください。

お知らせ2

1月24日 午後1時15分から丸子文化会館大会議室で「環境にやさしい農業講座」

講演会が開催されます。

演題：「有機栽培の基礎と実際～経験やカンでなく、データでつくりこなす有機栽培」

講師：ジャパンバイオフィーム 代表取締役 小祝政明氏

参加費無料、ご参加ください！！

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
地域生活係 櫻井普及員 (TEL25-7156)